

# 三富地域の農業について



さんどめ                      なかとみ      しもとみ                      かみとみ  
三富とは、所沢市の中富、下富地区から三芳町の上富地区にわたる広い地域で、およそ 300 年前に川越城主柳沢吉保の命により開拓が行われました。

開拓では、幅 6 間 (10.8m) の道路を縦横に作り、これに沿って民家を配置しました。それぞれ 1 戸の間口を 40 間 (72m) 奥行 375 間 (675m) 面積を 5 町歩 (5ha) とし、短冊型の土地割りをし、道路沿いから住居、畑、山林の順に配しました。



市民参加による落葉掃き

山林の落葉を集めて (落ち葉掃き) 堆肥を作り、肥料として畑に還元する環境にやさしい農業が行われました。しかし、現在この伝統的な農業を継続している農家もわずかになってしまいました。富という地名は吉保が「論語子路篇」から取ったもので、川越からみて上富村・中富村・下富村と命名しました。このうち、中富村と下富村が本市の中富地区と下富地区にあたります。

## 団体紹介 ～所沢市農業後継者協議会～

所沢市農業後継者協議会は、柳瀬地区と富岡地区の 29 歳から 40 歳位までの農業青年で構成され現在、会員は 62 名です。首都近郊という有利な立地条件を活かし、消費者の食卓に美味しい野菜を提供することを考えながら農業経営に努めています。会員は日々の農作業のかたわら、農業技術の修得のための交換会を行っています。

今年度に行われた主な事業を紹介します。昨年 10 月末に航空公園で開催された市民フェスティバルの農業祭 (右写真) では 2 日間新鮮な農作物を販売しました。また、11 月に市役所市民ホールで行われた品評会 (下写真) では、高品質なさといも、にんじん、ほうれん草などを訪れた市民の方々に紹介いたしました。その後の即売会も大好評でした。



これから販売が始まります



即売会は人気が高く行列ができました

このほかにも農業経営の先進地や優良事例を視察研修して、知識と技術の向上を図っています。

都市化が進展し地域農業の担い手である農業青年の役割は増大しています。これからも、さまざまな活動を通じて会員相互のつながりを持ち、消費者の皆さんに新鮮で、安全な農産物を提供できるよう進めていきます。